No.471

発行　一般社団法人名古屋工業会
（名古屋工業大学全学同窓会）
〒466-0062 名古屋市昭和区狭間町4
TEL・052-731-0780
FAX・052-732-5298
E-MAIL・gokiso@lime.ocn.ne.jp
http://www.nagoya-kogyokai.jp/

一般社団法人名古屋工業会会誌

ごきそ

2016 5-6 月号

[学位記授与式・入学式]
平成27年度学位記授与式
平成27年度名古屋工業会賞贈呈式
平成28年度入学式
[交流コーナー]
63年前の思い出
[研究者紹介]
受動歩行由来の無動力歩行支援機ACSIVE
[プロジェクト]
コミュニティ創成教育研究センターの活動報告
[学生コーナー]
研究室の旅　山村研究室
部活のとびら　日本拳法部
平成28年度 合格者発表
新講堂、完成は6月末を予定
[新聞記事コーナー]
中日新聞、中部経済新聞
[情報ネットワーク]
支部報告・会員ニュース

「会費の自動引き落とし」をご利用の会員様へ

一般社団法人　名古屋工業会　理事長　水 嶋 敏 夫

名古屋工業会会費の口座振替のお知らせ

会員の皆様におかれましてはますます御清栄のこととお慶び申し上げます。

会費納入につきましては、ご協力いただき感謝いたしております。名古屋工業会は、母校の発展と会員相互の交流･啓発を図り､卒業生が実り多い人生を過ごすことができますよう､諸活動を活発に行っています。これも会員各位の御支援があるからこそ、と感謝いたしております。

早速でございますが、平成28年度の会費納入を、お願い申し上げます。

終身会員の取り扱いにつきましては下記の通りでございます。

工業会の活動はこの会費収入に依存しておりますのでよろしくお願いいたします。

※自動口座振替ご利用の方は、平成２８年７月６日(水) にご指定の銀行より、金５，０００円也を引き落としさせていただきます。

記

【 終身会費について 】　※平成26年４月１日より会費改定しております。

卒業後１０年未満の方	８０，０００円	卒業後４０年以上の方	３０，０００円
卒業後１０年以上の方	６０，０００円	卒業後５０年以上の方	２０，０００円
卒業後２０年以上の方	５０，０００円	卒業後６０年以上の方	１０，０００円
卒業後３０年以上の方	４０，０００円		

※「会費の郵便振替」をご利用の会員様へは次号、振込用紙を同封致します。

名古屋工業会 会員優待のご紹介（詳しくはHPをご覧下さい）

◎名古屋ボストン美術館　無料入場（本人）
チケット売り場に会員証を提示し、入館券を受領願います。

◎徳川美術館　無料入場（同伴者１名可）
チケット売り場に会員証を提示し、入館券を受領願います。なお、入館券を提示すると、日本庭園徳川園も半額にてご入園いただけます。

◎宿泊割引（HPでご確認ください）
- アソシア ホテルズ & リゾーズ
- 東急ホテルズ
- 名鉄グランドホテル・ニューグランドホテル

◎支部施設（ＨＰでご確認ください）
- 東京サロン（八重洲倶楽部）
- 大阪支部利用施設（中央電気倶楽部）

◎大学施設（ＨＰでご確認ください）
- （旧）木曽福島修練所

◎その他（会誌「ごきそ」に同封いたします）
- 上新電機㈱特別優待
- 三井住友トラスト・カード　VISAゴールドカード

表紙写真説明

「２号館前」

撮影者　名工大企画広報室

平成27年度 学位記授与式

名古屋工業大学平成27年度学位記授与式が３月23日(水)、名古屋市公会堂大ホールにおいて、卒業生および保護者等が出席して厳かに開催された。

式典は、鵜飼学長をはじめ大学役員、水嶋名古屋工業会理事長等来賓が列席し、管弦楽団によるワーグナー作曲「ニュルンベルグ」マイスタージンガー第１幕への前奏曲の演奏で開式、博士35名、修士621名、学士949名に学長から学位記が授与された。続いて学長式辞があり、大学院修了者・学部卒業生の各代表から答辞が述べられた。

最後に合唱団によって学歌が合唱され、学位記授与式を終了した。

平成27年度 学位記授与式 式辞

国立大学法人名古屋工業大学
学長　鵜飼 裕之

皆さん、本日はご卒業おめでとうございます。ここに、博士35名、修士621名、学士949名、総計1,605名の皆さんに学位を授与致しました。ご臨席を賜りましたご来賓の皆様ならびに列席の理事・副学長、各部局長をはじめとする教職員一同、無事学位を取得されたことに心よりお慶びを申し上げます。そして、50名の留学生の皆さん、母国から遠く離れた不慣れな異国の地で学生生活を送り、日々、学業に研鑽を積まれたことに、Congratulations!　そう申し上げたいと思います。また、第二部の20名の皆さん、34名の社会人学生の皆さんには、仕事と学業との両立を立派に成し遂げられた強い意志と努力に対して、心より敬意を表します。もとより、皆さんの今日があるのは、ご家族の温かい支え、友人の協力、教職員や先輩方の指導、助言があったからに他なりません。皆さんを支えたこれらの方々に感謝し、今日の喜びをともに分かち合って頂きたいと思います。名古屋工業大学を代表して、ご家族ならびに関係の皆様よりいただいた、多大なご支援に対し、厚く御礼を申し上げます。

名工大は、前身である名古屋高等工業学校時代の明治41年、初めての卒業生54名を送り出して以来、７万人を超える優れた卒業生を輩出し、磐石な地位を築いてきました。皆さんたちの先輩は、産業界、大学・研究機関、官公庁などで素晴らしい活躍をされています。先輩たちは、社会人となられた皆さんを、期待をもって温かく迎えてくれるでしょう。名工大同窓生としての誇りをもち、その期待に大いに応えてください。また、大学院に進学する皆さんは、さらに研究に邁進し、学術に磨きをかけてください。

皆さんは、名工大において、厳しい授業・実験・実習、研究指導、また、課外活動、学外での研究発表などの体験を通して、多くの知識を吸収し、自ら考える力を養い、知と技能、教養、表現力など、将来、工学技術者・研究者として成長するための様々な能力を身につけ、研鑽を積んでこられました。そして、立派にそれぞれの学位を取得され、本日を起点として、新たな道を歩もうとしています。その道の先に、どんな人生が待ち受けているか、不安とともに新たな夢や希望にきっと胸を膨らませていることでしょう。

卒業という人生の転換点は、これまでを振り返り、改めて自分を見つめ直す良い機会です。

ではまず、皆さんが、過ごした年月はどのような時代の流れの中にあったのでしょうか。世界での出来事をキーワードでひろってみると、アラブの春、テロ、難民、欧州債務危機、ウクライナ危機、シェール革命、BRICs、中国経済の減速、IoTなど、政治、経済、社会の変化が急速に起きています。そして、わが国は、５年前、東日本大震災という未曽有の危機を経験しました。この体験を通して、わたしたちは、人生観、価値観を見つめ直し、そして何より人のつながりの大切さを再認識しました。そして、アベノミクス、デフレ脱却、規制緩和、TPP、マイナス金利など、わが国の経済再生に向けた一連の動きが際立っています。一方、ものづくりの世界的な集積地であるこの地域に目を転ずれば、円安、株高などの影響もあり、経済活動は上向きに転じました。さらに、ノーベル賞を受賞したLEDとともに、「リニア」「FCV」「MRJ」が将来を明るく照らす星として輝いています。

では、皆さん自身はどう変わったでしょうか。名工大に入学した時に抱いていた夢や希望は、あるものは現実的な姿となって将来の具体的な目標に変わり、あるものは色あせてしまい、ま

た、あるものは新たな夢に変わってきたのではないかと思います。

皆さんは次の言葉をお聞きになったことがあるでしょうか。

・信念は思考になる
・思考は言葉になる
・言葉は行動になる
・行動は習慣になる
・習慣は人格になる
・人格は運命になる

インドの賢人、マハトマ・ガンジーの言葉です。元はヒンズー教の教えとも言われ、英国初の女性首相、マーガレット・サッチャーも別のフレーズで引用した有名な言葉です。信念が運命に至るまでの過程を示し、たいへん示唆に富んだ言葉です。

ここで、信念から運命に至るプロセスを、私たちにも馴染み深い大先輩である、トヨタ生産方式を生みだした大野耐一さんを例に、具体的に紹介したいと思います。本学の名誉教授若山滋先生が「大野耐一、工人たちの武士道」という著書の中で、様々なエピソードを交えて著されています。

大野さんは、機械加工と組み立ての製造責任者になったとき、ひとつの信念をもっておられました。それは、「生産方式の改善は、部分的な効率化ではなく、全体が流れるようにすることだ」というものでした。そして、昭和31年、フォード、GMの生産工程視察のため、米国を訪れたとき、大野さんが着目した場所は、街中の大型のスーパーマーケットでした。当時世界を席巻していた大量生産方式ではなく、必要なものを必要なときに必要なだけ入手することができる、これぞ豊田喜一郎が提唱した「ジャストインタイム」であると、気づいたのです。そして徹底的に無駄を省く思考が、今では世界で通用する「かんばん」や「あんどん」という独特の方式を取り入れた生産ラインの考え方となり、「かいぜん」へと結びついて「多品種少量生産ライン」という形に結実します。その後、この一企業で導入された生産方式は世界に広がり、グローバルスタンダードとなり、デジタル時代の申し子であるビルゲイツにも影響を与えました。

「現場が俺を呼んでいる」というほど、大野さんは現場を大切にしておられました。現場で「気づき」、またあるときは、作業員の言葉に「気づかされ」、さらに、他社の生産現場を直接見聞きして新たな「気づき」に出会う、そうしたエピソードが数多く紹介されています。もちろん、「気づき」だけでは生産ラインが生まれたわけではありません。その先には「学び」があり、「学ぶ」ことから様々な「気づき」の機会が生まれます。「学び」と「気づき」のフィードバックを繰り返し、信念は思考となり、それが行動に結びつき、行動を繰り返すうちに習慣となり、そうして習慣を身につけることによって人格が形成されていくのでしょう。

今、急速なICTと人工知能の進化は大野さんが追求した「ものづくり」現場を大きく変え、IoTによる第四次産業革命と言われる時代を迎えています。皆さんにはぜひとも第二、第三の大野耐一を目指していただきたい。とはいっても、全員が易々となれるわけではありません。かのローマ帝国の礎を築いたジュリアス＝シーザーが言ったように、“多くの人は見たいと思う現実しか見ない”傾向にあります。

「気づき」と「学び」を懸命にフィードバックしながら、つねに観察眼を鍛練して「本質」を見抜く力を養ってください。そうすれば、次に自分が何を行動すべきか、見たいと思う以外のものが自ずと見えてきます。学びの姿勢を崩さずに自らを磨き、現場での体験を通じて「気づき」を大切にし、社会の変化に鋭敏に対応できる工学技術者・研究者に成長されることを心から期待しています。これを私の餞の言葉として、本日、学位を取得された皆さんへ贈りたいと思います。

名古屋工業大学は、新たなスタートを切る皆さんをこれからも応援していきます。そして、皆さんに続く優秀な人材を世に送り出すために、永年の伝統と誇りを守りながらもそれに甘んじることなく、変化する社会・産業界の期待に応え、世界に伍していける大学に進化してまいります。

皆さんのご健闘を祈念しています。

本日は、誠におめでとうございます。

平成27年度 名古屋工業会賞贈呈式
（学生支援事業）

理事長挨拶

一般社団法人名古屋工業会
理事長　水嶋 敏夫（M42）

ご紹介いただきました水嶋でございます。

平成27年度名古屋工業会賞贈呈式にあたり、全学同窓会組織であります一般社団法人名古屋工業会を代表して一言ご挨拶申し上げます。

本日学位を授与されました皆さん、ご卒業おめでとうございます。

また、ご同席のご家族そして関係者の皆様におかれましては、卒業生の皆さんの晴れ姿に、感激と喜びは如何ばかりかと拝察致します。

そして、留学生の皆さんにおかれましては、故郷を遠く離れて学業・研究に専念され、当初の目標を達成されたその意欲とご努力に、深く敬意を表すとともに、心からお祝い申し上げます。

先程19名の方に、名古屋工業会賞を贈呈しました。

この賞は学長の推挙に基づき、卒業生の中から学業成績が特に優秀で、豊かな感性とリーダーシップを持ち、他の模範になると認められた方に贈呈するものです。

受賞された方はもちろん、全ての卒業生の皆さんがこれから進まれるそれぞれの分野で、輝かしい成果をあげていかれることを期待しています。頑張って下さい。

さて、皆さんの中には、これから直ぐ社会に出られる方もみえますし、更なる研究の道に進む人もみえ、それぞれ新たなスタートラインに立った訳ですが、先輩でもある私から皆さんに、はなむけの言葉を贈りたいと思います。

それは、一人ひとりが「志」と「人との絆」を大切にして欲しいということです。

今後進んでいかれるそれぞれの道で、世のため人のために自分は何をなすべきか、今一度自問自答し、この機会に自分自身の「志」は何か？ということを深く考えて欲しいと思います。

日本は科学技術の先進国だと思います。広い意味でものづくり立国日本が世界で躍進できるよう、自分の技術力で日本を引っ張るぐらいの意気込みで日本一、世界一を目指し、日々変革に挑戦していって欲しいと思います。

長い人生の途中には、つらい事や時には挫折する事もあるでしょうが、「志」がしっかりしていれば、きっと乗り越えられると私は思います。

また、私自身も会社へ就職した後、名工大の大先輩達と出会い、長い間ご指導を受け育ててもらいました。

学生時代および社会生活の中で多くの先輩を知り、多くの友人をつくり、生涯の交流を続けている方々は沢山みえると思います。

社会の中では、たゆまぬ努力を続けて自ら成果をあげる事が基本ですが、一つの事を成し遂げるには、自分一人だけの力では不十分で、チームとしての力が大変重要になります。

今後は海外を含め一人でも多くの人を知り交友を深め、「人との絆」の輪を拡げていって欲しいと思います。

さて、当名古屋工業会はいわゆるＯＢ会組織として「耀く、ますます耀く母校を願って」をキーワードに『大学支援』を事業目的の第一の柱とし、教育研究活動、海外留学、課外活動な

どの支援をしています。

卒業される皆さんは、今日から名工大卒業生としての誇りを胸に、日本で、世界で大いに活躍されることを期待していますが、卒業生の皆さんの今後の社会での活躍と頑張りが母校の名声を高め、名工大の更なる発展と繁栄につながっていきます。

母校への帰属意識を大切に、後輩たちを育成するための『大学支援』にも、積極的に貢献して欲しいと思います。

工業会のもう一つの活動の柱は『会員相互の親睦』です。

日本全国には北から南まで22支部の拠点があり、諸先輩が企業の見学会、講演会などを開催し、相互の親睦と啓発を深める活動をされています。

皆さんの新たな活躍の場は全国に広がると思いますが、工業会のホームページでは各支部の活動情報をお知らせしていますので、支部活動にも積極的に参加して交流を深めて頂くとともに、皆さんの若い力で全国の支部活動の活性化に向けて新風を巻き起こして下さい。

そのためにも、名古屋工業会に未だ加入されていない方は、今日是非加入して頂きたいと思いますので、よろしくお願いします。

最後になりましたが、これまで卒業生の皆さんを育てられたご家族に深い敬意を表しますと共に、鵜飼学長はじめ教育研究のご指導を頂きました教職員の皆さま方に心からの謝意を表し、私の挨拶とします。

本日は大変おめでとうございました。

名古屋工業会賞の贈呈式が平成28年3月23日(水)に名古屋工業大学学位記授与式の後で行われ、水嶋理事長から次の19名に表彰状と記念品(刻銘入り時計)が贈呈された。

名古屋工業会賞は、第一部、第二部の各学科卒業生のうち、在学中の学業成績がきわめて優秀であり、豊かな感性を持ち他の学生の模範となる学生に対して、学長の推挙に基づき贈呈するものです。

贈呈者

(第一部)

生命・物質工学科	羽山　大樹	扇田　惇史	成瀬　智子
環境材料工学科	太田　郁也	杉浦　太郎	
機械工学科	伊藤　武史	松本　　悠	小川　貴裕
電気電子工学科	北村　瑞紀	KIM CHAN YOUNG	服部　仁美
情報工学科	田中　亮佑	霜村　侑香	林　　政行
建築・デザイン工学科	位田　健太	日高　史帆	
都市社会工学科	田中　敬大	原田優花子	

(第二部)

電気情報工学科	吉田　昇司

平成28年度 入学式

名古屋工業大学は４月６日(水)、平成28年度入学式を名古屋市公会堂大ホールにおいて開催した。

式典は、鵜飼裕之学長をはじめ大学の役職者、名古屋工業会の水嶋敏夫理事長、内藤克己常務理事らが列席し、管弦楽団の奏楽で開式した。

鵜飼学長から工学部第一部946名、工学部第二部23名、大学院工学研究科博士前期課程713名、博士後期課程42名、総数1,724名の入学が許可され、各代表が勉学・研究に専念する旨を宣誓した。続いて、鵜飼学長から入学者歓迎の式辞が述べられた。引き続き、来賓として水嶋理事長よりお祝いの言葉が述べられた。

最後に、新入生を歓迎して合唱団が学歌を合唱し、入学式を終了した。

この後、新入生には学部生と大学院生に分かれて新入生オリエンテーションが行われた。保護者には名古屋工業大学と名古屋工業会による保護者説明会が開催され、鵜飼学長の挨拶の後、山下啓司キャリアサポートオフィス長ら大学教職員から、名工大の特長、入学から就職までの大学生活をサポートする体制について説明が行われた。また、水谷尚美理事・連携強化委員長が全学同窓会である名古屋工業会について説明し、保護者に本会への理解と協力を求めた。

保護者説明会

学 長 式 辞

国立大学法人名古屋工業大学
学長　鵜飼　裕之

咲き誇る鶴舞公園の桜が、皆さんの入学を祝福しているようでございます。

皆さん、名古屋工業大学にご入学おめでとうございます。ご臨席のご来賓ならびに列席の理事・副学長、部局長をはじめとする教職員一同とともに、皆さんのご入学をお祝いしたいと思います。日々勉強に勤しんできた努力が実を結び、晴れて入学されたことに敬意を表するとともに、これまで皆さんを力強く支えてこられたご家族、関係の皆様に心よりお祝いを申し上げます。

約一世紀前、教職員30名、学生100名で開校した工業学校は、科学技術の進歩と高等教育の普及に伴い、国立大学工学部の中では、教職員約530名、学生約5700名の屈指の規模を有する工学系単科大学として発展してきました。そして、今年は創立111周年。さらに１が並ぶ11月には記念行事も予定しています。皆さんと一緒に未来を語る前に、古きを温ね新しきを知る、まずは歴史を振り返り、名工大の根底に流れる建学の精神についてお話しをしたいと思います。

名古屋工業大学は、明治38年に創設された全国で4番目の官立名古屋高等工業学校および昭和18年創設の愛知県立高等工業学校を源流として、昭和24年に二つの学校が合併し、新制国立大学として発足致しました。

名工大の創立にあたって、初代学長でいらっしゃった清水勤二先生は「活きた問題」、「活きた研究」、「活きた教育」この３本柱を掲げました。

活きた、とは活動の活、でございます。社会・産業界が直面し、解決を望んでいる課題、いわば「イキ」のいい問題を掘り起こし、水が迸るごとく活き活きと進化し続ける研究により解決への道筋を探るとともに、本質を究明して学術の根を深くおろし、さらには、それを教育の上に表して人に活力を与える。これが名古屋工業大学の使命であり建学の精神であるとしています。

いま聞いても瑞々しい色あせない精神であると思いませんか。この実践的な名工大の学風が、今日まで7万人を超える優れた人材を社会に送り出し、数多くの卓越した研究実績を築いてきました。カンバン方式、カイゼンなどで有名なトヨタ生産方式を生み出した大野耐一さん、その理念と実践を支えた鈴村喜久雄さんをはじめ、この場ではご紹介しきれないほど先輩方の足跡は、世界中至る所で見つけることができます。中京地域は、皆さんご存知のように、わが国ひいては世界のものづくり産業の卓越した集積拠点です。この地域の活性化はわが国の産業の成長の鍵を握っているといっても過言ではありません。この地域で生まれ、地域社会・産業界の発展とともに育ってきた名工大が、世界の発展に極めて大きな役割を担っていることを、皆さんにはぜひ理解していただきたいと思います。

つぎに、名古屋工業大学がめざす教育についてお話しします。

名古屋工業大学では、歴史，文化，社会の発展を世界的な視野で理解し、科学と技術を新しい社会の創造に繋げる実行力のある人材、すなわち、実践的工学エリートを育成する教育をめざしています。科学技術の急速な進展と社会のグローバル化、多様性から、産業界や社会が求める人材も多様化しています。その要求に応え

るべく、名古屋工業大学は、今年、新たな教育システムをスタートいたしました。皆さんが入学する新学科は、学問体系にしっかりと根を下ろしながらも、社会・産業界の人材ニーズに対応できる教育体制です。そのなかで、教養を修め、基礎から専門へと工学の頂をめざして登っていくことになります。そこには、様々なルートが提示されています。将来を見据えて自ら計画を立て、設計しながら自分に合った道を選択してください。また、学部・大学院修士課程を6年一貫で教育する創造工学教育課程は、科学技術に対する多面的な視点と新たな価値観から技術を理解し、様々な技術要素から斬新な発想の下で製品やサービスを生み出すことのできる、創造性豊かな人材の育成をめざしています。多面的・俯瞰的な工学センスを身につける学習環境のなかで、新しい工学へのアプローチを作り出す意欲を学び、新たな価値・ものを生み出すための広い視野と創造力を養ってください。大学院に進学する皆さんも新しい専攻で学ぶことになります。大学院では、さらに高度な専門性を身につけ研究の道に入っていきますが、それはわき目もふらず狭い道をまっしぐらに進むことではありません。他の研究テーマ、研究分野にも関心をもち、多様な学問分野に目を開いて創造性を養ってください。学内には様々な教育研究センターがあり積極的に活動しています。民間企業との共同研究に参画する機会もあります。さらには、海外研修、インターンシップ、学会活動など、活動範囲を学外に求めることもできます。そこで得られる異なる発想や知識、研究成果はきっと皆さんの研究に役立ちます。

皆さんが大学で学ぶのは、工学専門分野の知識と技能だけでは、もちろんありません。日本の歴史と風土、文化、社会の仕組み、そして世界を知るために幅広い教養を身に着け、自らの人生観、世界観を築く場所と時間を与えてくれるのが大学です。課外活動に打ち込み、仲間を増やして、皆さんの住む世界を広げることも良いでしょう。識らないことを識る楽しみ、今の皆さんの感性だからこそ、その楽しみを享受し、得られるものが沢山あります。

もう一つ、皆さんに期待されていることがあります。それは、国際性です。どんどんグローバル化する社会が求める人材は、語学力をしっかりと身につけ、自らの考えを国際社会でしっかりと主張できる論理的な思考力、発信力、実行力をもった若者です。海外留学の経験は国際性と自立心を養う絶好の機会です。

自立した一人の人間として力強く生き、グローバルステージをめざす皆さんを後押しするために教育環境整備を名工大は惜しみません。

皆さんがこれから大学で過ごす4年間、あるいはそれ以上の月日とともに世の中は間違いなく動いていきます。発生から5年が過ぎた東日本大震災の復興もこれまで以上に加速しながら日本中の眼差しは注がれ続けます。4年後には東京オリンピックが控えています。そして、およそ10年後のリニア開通に向け、名古屋駅周辺は益々活気づいてくることでしょう。燃料電池車の市場参入,自動運転など自動車のあり方も大きく変わっていくことと思います。昨年、国産初のジェット旅客機MRJが初飛行を果たしたのも皆さんの記憶に新しい出来事だと思います。離陸した瞬間、携わった人たちが空を見上げている姿を見て、ものづくりの技術が実を結ぶ瞬間に立ち会うときの感動、それこそが技術者の追い求めている夢であると感じました。ものづくりの拠点、技術の宝庫、名古屋工業大学から世界へ羽ばたく！この躍動感を持って、ぜひ皆さんにも大空を見上げて欲しい。

同じ空の下、世界に眼をむければ、IoT、Internet of Things、これが急速に進展しています。産業界では第四次産業革命の流れが加速し、社会はスマートな社会に向かってますます変貌していきます。まさに時代のフロンティアに皆さんは立っているのです。

名古屋工業大学は、皆さんを、活き活きと全力で支援し、緑豊かなこの地に「工学」の未来をのせ、教育研究環境の充実と不断の改善をはかっていくことを強く約束し、私の式辞といたします。

理 事 長 挨 拶

一般社団法人名古屋工業会
理事長　水嶋　敏夫（M42）

ご紹介いただきました水嶋でございます。

平成28年度名古屋工業大学入学式にあたり、全学同窓会組織であります一般社団法人名古屋工業会を代表して一言ご挨拶申し上げます。

本日入学されました皆さま誠におめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

ご家族そして関係者の方々のお喜びは如何許りかと拝察いたします。

また、博士前期・後期課程進学に際し、これまでの勉学のご努力とご家族のサポートに深く敬意を表しますとともに、教職員の方々および関係者の方々の渾身のご指導に深く謝意を表します。

さて、名古屋工業会の活動について、少しご紹介したいと思います。

名古屋工業会は大正4年(1915年)名古屋高等工業学校同窓会として設立され、現在まで101年と伝統あるOB会組織ですが、卒業生だけでなく、現役の学生、教職員も会員とする組織として「耀く、ますます耀く母校を願って」をキーワードに『大学支援』を事業目的の第一の柱として活動をしています。

その大学支援とは、大学の教育研究活動そのものと、大学が行なう海外留学などグローバルな人材育成のための支援を中心としております。

今後の日本にとって、グローバルでの活動は避けて通ることのできないものだと思います。

新入生の皆さんも積極的にこの海外留学プロジェクトに参加して、海外で十分活躍できるエンジニアを目指し、新しい力を身につける機会にして欲しいと思います。

それ以外にも、体育会や工大祭はもちろんのこと、ソーラーカー、ロボットコンテスト、エフワンなどの日本一、世界一を目指した課外活動への支援も行なっています。

学生の本分は、学業に専念する事が第一ですが、このような課外活動は技術力を高めるだけ

でなく、多様なメンバーとのコミュニケーション能力、あるいはリーダーシップや精神力を養うことのできる貴重な場だと思います。

その経験は、将来社会人になったのち、大変役に立つと思いますので、皆さんも課外活動にも積極的に参加して欲しいと思います。

名古屋工業会のもう一つの活動の柱は『会員相互の親睦』です。

現在、工業会には1万3千人の先輩が加入しており、全国にある22の支部では企業などの見学会、講演会、親睦会等を開催し、会員相互の親睦と啓発を深める活動をしています。

現在、工業会への入会は大学入学と同時にできるようなり、新入生の内90%以上の方が加入してくれています。

皆さんも是非、全員の方が名古屋工業会の会員になって、卒業後は全国各地で様々な分野で活躍されている先輩と交流を深め、工業会の活動の輪を広げていって欲しいと思います。

さて、本年は母校が「実践的工学エリートの育成」を目指して大学改革をスタートする初年度にあたります。

今から始まる皆さんの大学での教育・研究の生活は､我々人類の未来を豊かにするための『何か』を産み出すパワーを皆さん自身内に蓄積する期間であると思います。

皆さんが将来「世のため人のために」自分は

何をすべきか自分自身に問いかけ、その科学技術の分野で将来自分が世界を引っ張るぐらいの気概を持ち、行動力のあるエンジニアを目指して欲しいと思います。

そのために必要な知識、経験、技術力を日々高めていく努力を継続していって下さい。

私の名工大の大先輩で、職場先輩でもあった方が、私共に企業の中で『改善』を進めるにあたり、「闇夜に霜の降りるがごとく」という言葉をくれました。

冷え込んだ朝、起きてみると辺り一面霜でおおわれて真っ白になっている。

雪や雨は、それが降っている時に人の目に映るが、どんなに明るい月夜でも、霜が降りるのは、目の当たりにすることはできません。

あれをやったから、これだけ結果が出たという簡単なものではない。

コツコツと毎日毎日の努力を積み上げていくと「闇夜に霜の降りるがごとく」後々あっと驚くほどの大きな成果を作り出すものである。

つまり、大きな改革を成すには、日々小さな改善を積み上げて初めてできるものであるという事です。

この考えは、改善だけでなく研究・開発など何事にも通じるものだと思います。

皆さんもじっくりと腰を据え、肩に力を入れ過ぎず、粘り強く突き進んでいって下さい。

しかし、長い人生何と言っても健康が第一ですので、スポーツでしっかり汗もかきながら、今しか無い青春を精一杯謳歌して欲しいと思います。

本日は本当におめでとうございました。

『ごきそ』電子化のお知らせ！

名古屋工業会では、会員の皆様から『ごきそ』の保管方法、現状のスマートホーンの普及もあり、外出時でのスマホ・タブレット等での閲覧などの便宜を図るようとの要望を受け、『ごきそ』の電子化を進める準備を行っています。

現在、新年度からの電子化を目指し、ホームページにおいて過去の『ごきそ』の閲覧が可能なようにしていますが、より見やすく、便利な形として電子化を始めたいと考えております。

これにより、省資源、長期的な財務基盤の整備にも充当することが可能となります。

会員の皆様からのご意見・ご要望等を参考に改善を行いながらより見やすい『ごきそ』電子版を制作したいと考えていますので、皆様の要望・ご意見等をお寄せ願います。

今後、電子版への移行については、従来の紙による『ごきそ』送付から、電子版への移行の希望を個々にお聞きし対応したいと考えております。

順次、お知らせをさせて頂きますのでご確認願います。

なお、ホームページの閲覧は、パソコン等の検索機能により名古屋工業会を検索願います。

【ご意見・ご要望の宛先】 ファックス：(052) 732-5298　電子メール：gokiso@lime.ocn.ne.jp

名古屋工業会のHP　会員限定ページについて

会員限定ページをご覧いただく際には パスワード入力が必要となります。

【パスワード:gokiso5298】

交流コーナー

６３年前の思い出

山田 幸治（K32）

昭和28年4月10日、名古屋工業大学から１通の葉書が届いた。

「貴殿は４月８日の入学式に欠席されました。当大学に入学辞退の手続きを至急されたい」。

去る、28年3月30日の入学試験合格者発表の日に、受験番号が無かったので不合格と思い、翌日大学に出向いた。

事務所で某主事にどうして不合格なのか聞きました。少し、待つように言われて、２時間程待ちました。某主事曰く「成績不良に着き不合格です」。

「わら半紙を下さい。試験問題と答案を全部書いて、成績が悪くないことをこの場で証明して見せます」。然し、わら半紙を呉れませんでした。泣く泣く帰宅して、来年、頑張ろうと受験勉強を始めました。

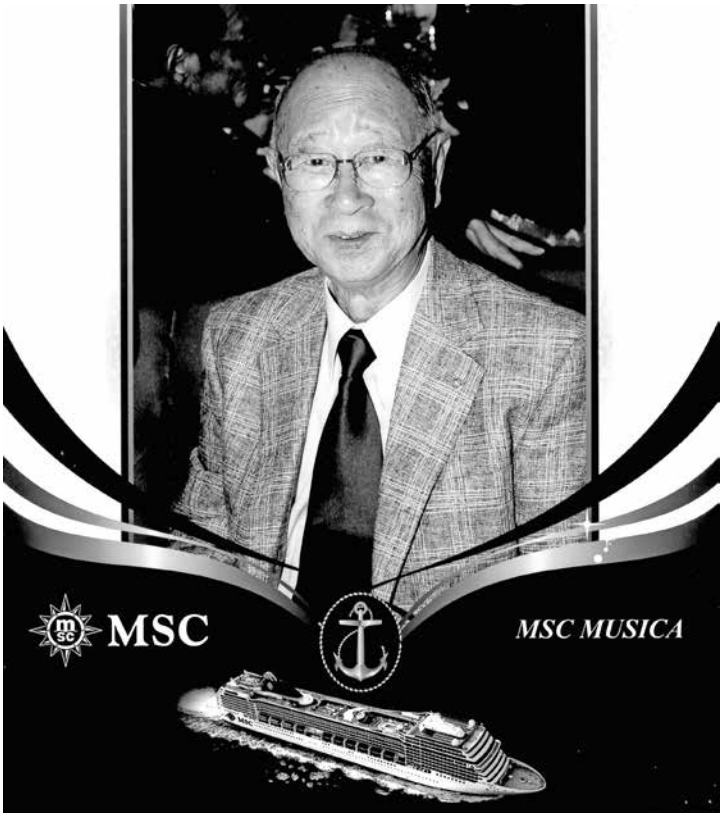
そのことがあって十数年後に、ある私立大学で入試の発表ミスがあり、新聞一面にデカデカと掲載されました。

小生は代数・幾何・物理・科学・英語が得意だったので、名工大を受験しました。これだけで1,000点のうち900点あります。

この話を同期会で話したところ、「ごきそ」に投稿してはどうかとの、意見が多数ありました。

小生の父親は明治37年の生まれですが、早稲田大学の理工学部電気工学科を卒業しました。昭和17年父親は他界し、小生は中学の頃からアルバイトをしながら高校を卒業しました。父親のように東京に出て働きながら、尋常小学校と大学しか卒業しないことは考えられず、名古屋工業大学を受験しました。

入学後は、名古屋市警（当時は名古屋市警と愛知県警がありました）で普通車（現在の大型二種）の免許を取り、駐留軍で夜は運転手、昼間は学生の生活を続けました。



研究者紹介

受動歩行由来の無動力歩行支援機ACSIVE

電気･機械工学専攻　教授　佐野明人

1．はじめに

近年、歩行機能再建に向け、ロボット工学などの工学的観点からのアプローチが盛んになっています。ヒューマノイドロボットの歩行制御技術は、ヒト歩行のアシスト･リハビリテーションへの応用の期待も高いです。私たちは、受動歩行由来の無動力の歩行支援機ACSIVE（アクシブ）を産学連携の成果として実用化しましたので、基盤となったロボットの研究も交えて、ご紹介します。

2．受動歩行ロボット

受動歩行ロボットは、動力モータ（含バッテリ）やセンサを持たず、制御を一切行わず緩やかな下りスロープを歩くことができます。ロボットを支えながら、脚に位相差を付けてスロープに解き放つと力強く歩み出します。ロボットが手元から離れて行く時、本質的に「歩ける」ことを実感します。

受動歩行は、重力効果のみによって、遊脚膝が自然に曲がり、脚の振り抜きが行われます。また、脚軌道があらかじめ決められているわけではなく、ロボットのもつダイナミクスと環境との相互作用のみによって歩容を生成します。したがって、動いているけれども、必ずしも動かしているわけではないのです。

受動歩行は、エネルギー効率が高いことで知られ、ヒトの歩行に近いとも言われています。また、調子の良し悪しがあり、不意に転倒するなどの側面を持っていますが、見方によっては、ヒトにも通じる歩行機構の繊細さがしっかり表現されています。

等身大の受動歩行ロボットは、ヒトがアシスト力を加えることで、簡単にスロープから私たちの生活空間に活動範囲を広げました。図１に

図１．ヒトに近い外観の受動歩行ロボット

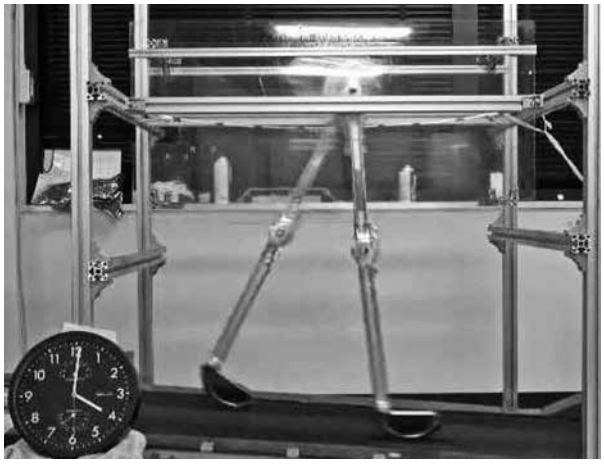


図２．27時間の連続歩行を達成した受動歩行ロボット

図３．ヒトに近い3次元受動歩行ロボット

示すように、ヒト形受動足機構や外装が備わった受動歩行ロボットは、極めてヒトに近い歩容を見せます。また、受動歩行ロボットに独自開発した股関節カム・バネ機構を搭載すると、膝折れやつまずきによる転倒が大幅に低減し、2012年5月、27時間（13万歩、72km）の連続歩行（図2参照）を達成しました（当研究室の2009年のギネス世界記録を上回る）。

さらに、ヒトのアシストのない3次元受動歩行（図3参照）やヒトのように躍動的に走行するロボットの研究も学生たちと行っています。走行ロボットは、2020年の東京オリンピック・パラリンピックで聖火ランナーが務められるまで走行能力を高めたいと思っています（図4参照）。

さて、受動歩行ロボットによる歩行支援の最初の実験は、2009年10月まで遡ります。図5に示すように、受動歩行ロボットの特徴である円弧足の上部水平面に足を置き歩行を試みましたが、極めて歩き辛いものでした。受動歩行ロボットが良く歩けたとしても、それをどのようにヒトの歩行支援につなげれば良いかは未知の領域でした。

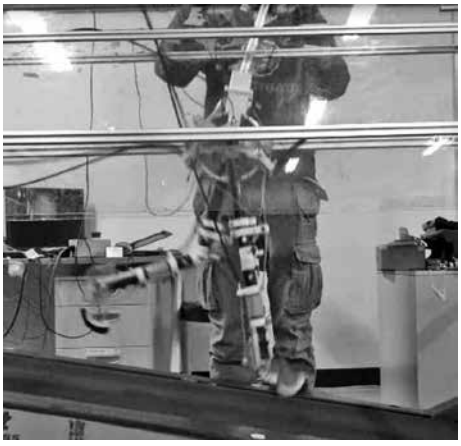


図４．聖火ランナーを目指す走行ロボット

図５．受動歩行ロボットに搭乗した人

３．無動力歩行支援機ACSIVE

図６に受動歩行由来の無動力歩行支援機（片脚式）を示します。足部はなく、腰軸・膝軸を有する２リンクのロボット様式です。関節軸はすべで単軸（ピッチ軸）となっており、単純な構造でありながら歩行支援ができる形になっています。受動歩行ロボットをベースにしていますが、ヒトの歩ける力を最大限引き出すために、さらにコア要素のみとなっています（引き算の技術）。図６は、2012年（左図）および2013年（右図）に試作したプロトタイプです。それぞれ質量は約1.5kgおよび1.0kg弱です。

図６．片脚式歩行支援機（プロトタイプ）

また、股関節カム・バネ機構をヒップユニットに内蔵しています。図２および図３の受動歩行ロボットのものと同じ原理です。図７は2013年モデルの股関節カム・バネ機構であり、カムは腰軸（大転子位置）上、腰プレートに固定され、一方バネは脚支柱につながるヒップユニットに内蔵されており、カムフォロワを介してカムに圧接しています。なお、カム形状によって任意のトルク特性が生成できます。

本カム形状では、支持脚期後半に弾性エネルギーがバネにチャージされ（負担は感じない、

過度に減速しない)、遊脚期前半にアシストに利用されます。このとき、脚が軽くなる感じで歩き易く、歩行スピードも上がります（即時的効果)。また、バネの初期押込み量によりアシスト力が調整できます。

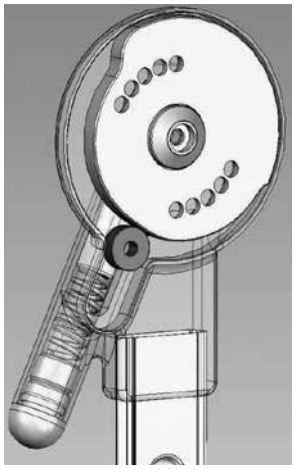


図７．股関節カム・バネ機構

スロープを下る受動歩行ロボットは、ポテンシャルエネルギーを使いますが、無動力歩行支援機は、自立歩行（階段や坂道の上りも含め）する際のヒトのエネルギーを上手く再配分することで、自らの力で自らを支援します。ヒト歩行におけるレバレッジポイントを最小限の介入で支援する設計思想です。

図８．ACSIVE（アクシブ）

その後、以下に示す改良を施した無動力歩行支援機ACSIVEが、共同開発先の（株）今仙技術研究所から2014年9月に市販化されました。これまでに、約1400台のACSIVEが世に出ています（図8参照)。なお、両脚用は2015年5月に受注を開始し、片手が不自由な方でも上手く装着できるタイプは、2016年4月から受注開始予定です。

支援機と脚をつなぐ方法に関しては、過去のプロトタイプでは、ふくらはぎを囲う大きな樹脂製の脛カフを採用していましたが、ふくらはぎの形状に上手く合っていないと脛などに負荷が掛かっていました。そこで、図８の市販品では、小さなカフを膝下に装着し、伸縮性のあるソフトな生地を巻いて面ファスナーで固定する方法を採用しました。これによって脚へのフィット感も増しました。

脚支柱は、2013年モデルでは2枚の薄板を曲げ加工し、両者を組み合わせたものを使用していましたが、市販品では、細いカーボンチューブを２本使用し、より軽量化してねじれ易さも維持しました。高齢者や子供が装着しても負担にはならない重さであり、またスカートの下でも違和感なく装着できる薄さになっています。

装着方法は、まず、腰ベルトを前で装着し、ベルトのウエスト周りの長さを調節します。この時、支援機の膝軸はヒトの膝の2 ～ 3cm程度上方に、支援機の腰軸とヒトの大転子の位置がほぼ一致するようにします。次に、膝カフを膝下に面ファスナーで固定し、立っていても座っていても、脚にフィットしている状態にします。最後に、腰ベルト側に固定されたカムが初期の位置・姿勢を保持できるように、前方の小ベルトで斜め上方のテンションを調整しておきます。

ここで、主な特徴をまとめておきます。

(1) 無動力・無電装
(2) 超軽量（500gクラス）
(3) より安全
(4) 低コスト

(5) 簡単装着・低装着感(腰・膝ベルトのみ)
(6) 体のひねりがし易い（方向転換など）
(7) 座位、正座、胡坐など可
(8) 静粛
(9) 見せるデザイン・簡単構造
(10)持ち運びも簡単（旅行等）

４．おわりに

ACSIVEは、普段通りに歩くだけで、振り子の動きとバネの力で脚の動き（歩容）を整えます。足が軽くなる感じで歩き易く、歩行スピードも上がります。シンプルで簡単な原理の歩行支援機であるACSIVEは利活用もし易いです。急性期での体重免荷式歩行器との併用もその一つです。また、着地時に膝折れが起きやすい場合は、逆のトルクを発生させることにより、大腿部を手で押さえなくて済みます。一方、男性に比べ女性の装着は難しく、腰ベルトなどさらなる改良が必要となってきます。また、伸展域が適切にとれないとアシスト力が十分に得られない場合があります。

TBSテレビ「夢の扉＋」の全国放送後、2014年9月9日、学長もご出席の上、名古屋工業大学と（株）今仙技術研究所の合同記者発表が大々的に行われ、多くのメディアに取り上げられました。一般の方々から、電話、メール、手紙を数多く頂いており、その反響の大きさに驚いています。ユーザーからは、「こんな機器を待っていた」、「私のために開発されたと思えるほど」などの声が上がっています。また、全国の医療機関などで導入が進んでおり、臨床応用における研究発表も見られるようになってきています。名古屋工業大学に縁のある方々からも多数ご連絡頂き、少しでもお役に立てることをうれしく思っています。

シンプルな歩行支援機に出会うことで、リハ室から病棟へ、病棟から自宅へとシームレスにつながります。歩行支援が身近になり、歩行が弱った方の日常生活・旅行や、アクティブシニアの方の歩くレジャーなどのシーンでも利用できます。生活の中で使えるからこそ、歩行を支援してくれる機器から、人生そのものを支援してくれる機器へと変わり得る可能性を秘めています。

平成27年度は、中日産業技術賞（特別奨励賞）、グッドデザイン賞、計測自動制御学会システムインテグレーション部門学術業績賞および技術業績賞（今仙技術研究所）の各賞を関連して受賞しました。

受動歩行はPassive walkingであり、この受動歩行由来の技術が人々の生活を下支えし、人々を明るく元気に、前向きに活発にするActiveとの意味が、ACSIVEの名前に込められています。ACSIVEは本学の商標として登録されており、今後、本学のブランドの一つとして育てて行きたいと思っています。ご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。

【ACSIVE問合せ先】
〒509-0109
岐阜県各務原市テクノプラザ3丁目1番8号
（株）今仙技術研究所 特販課
TEL: 058-379-2727　FAX: 058-379-2726
E-mail: acsive-alias@imasengiken.co.jp
HP: http://www.imasengiken.co.jp/

プロジェクト

PROJECT

コミュニティ創成教育研究センターの活動報告

2012年4月に名工大に開設された「コミュニティ創成教育研究センター」は、2016年4月に5年目を迎えることとなりました。本稿では、センターの活動から、とくに教育的な視点での活動について「モリコロパークの園内案内システム開発プロジェクト」の事例をもとに、ご紹介いたします。

本プロジェクトには、当センターから「名工大の学生が、市民の方とふれあいながら、ユーザー視点での技術開発を体感すること」を目的に、主に浜口祐子 研究員および三矢勝司 研究員がコーディネーターとして関与しました。

写真１．工学ショー リハーサルの様子

１．学生自身による市民への研究（技術）説明

2013年度の「コミュニティ工学アウォード」では、名工大で研究開発しているいくつかの工学技術を広く学内外の方々に知っていただき、「自分だったら、こんな使い方をしたいなあ」というアイデアを出していただく目的のもので、当時のテーマは「名工大の技術で人がつながる公園を創ろう」という趣旨のアイデアを募集しました。アウォードで取り上げられた4つの名工大技術を、一般にわかりやすく説明するための「コミュニティ工学ショー」（写真1）をアイデア募集と並行して開催しました（2013年11月15日）。当該研究室の学生自身がデモ動画や、実際に市民に触ってもらえるデモ機を工夫して準備しました。この取り組みを通して、参加した学生にとって自身の携わる研究内容が、社会にどのように役立つのかを考えるきっかけとなりました。

２．社会実装に向けたシステム開発

2014年2月に開催された「コミュニティ工学アウォード2013」コンテスト審査結果では「知りたい情報が見られる虫眼鏡」の技術活用アイ

写真２．開発したシステム

デアがグランプリを受賞しました。そのアイデアは「ネット上の「愛・地球博記念公園（モリコロパーク）」の地図において、任意の場所に虫眼鏡ツールをあわせると、その場所だけに2005年の「愛・地球博」で立ち並んでいたパビリオン等、当時の様子が表示される地図を開発する」というものでした（写真2左）。

当センターでは、当該技術を研究している名工大・山本大介准教授とその研究室と連携して、「モリコロパークの園内案内システム開発プロジェクト」に取り組むこととなりました。

2015年にモリコロパークにて開催が予定されていた「全国都市緑化あいちフェア」（2015年10月29日～11月1日。於：愛・地球博記念公園（長久手市））でお披露目することを目標に開発プロジェクトを実施することとしました。プロジェクトには、同研究室を始めとしたチームで開発中の、スマートフォンを使った「モバイル音声道案内システム」（写真2右）の実証実験も加えることとなりました。

プロジェクトでは、行政や公園管理者と話し合いながら、虫眼鏡マップの開発を進めました（写真3）。また、市民向けの道案内システム体験イベント「スマホdeウォーク」を開催しました。このイベントを通じて、実証実験前にデモ版を触ってもらい、意見をもらうことで、ユーザーの求める機能は何かを考えるきっかけとなりました。

３．運用に向けたシステム評価・改善

2015年10月からの全国都市緑化あいちフェアにて、4日間の実証実験を実施しました。学生自身が来場者に参加呼びかけをしたり、体験者の感想を聞くことで、より多くの方に立ち止まってもらうには、また、体験者の満足度を上げるにはどうしたらよいかを考えて、日々改善するきっかけとなりました（写真4）。

写真３．行政と学生との対話

４．OJT的教育プログラムへの発展

当センターとして、⑴名工大が持っている技術（シーズ）の市民へのわかりやすさを意識した周知、⑵社会における当該技術の応用方法の企画、⑶関係者のフィードバック（ニーズ）を得ながらのシステム開発・社会実装、⑷実際の利用者からの評価・改善、これら一連のプロセスについて本プロジェクトを通じて関与することができました。研究室の外に出て著しく成長する学生を目の当たりにし、まさに「社会とともに育つ学生」というコンセプトを確認することができました。

これらの知見を整理すると、下記の3つがポイントとして浮かび上がりました。

⑴時間的制約：実証実験等の納期があることで、集中して研究に取り組むことができる

⑵連続的演習：同じ内容の演習を複数日実施することで、日々改善し、その結果を確認できる

⑶社会的体験：老若男女、多様な被験者と接することで、具体的なユーザーのイメージが深まる

これまでの研究室（あるいは名工大）内の研究教育に、このような実社会との接点をもった

写真４．実証実験の様子

研究教育が加わることにより、多様な研究者が育つ教育プログラムの実現が期待されます。

一方で、今回のプロジェクトで得られたようなフィールドや機会の発掘、関与するコーディネーターあるいはファシリテーターを適切に育成・提供する重要性も明確になりました。

今後も当センターは、引き続き教育面においても研究を進めていきます。引き続きご支援ご協力をお願い申し上げます。

■問い合わせ先
名工大・コミュニティ創成教育研究センター
TEL: 052-735-5334
community-c@lab-ml.web.nitech.ac.jp
ホームページ：
http://community.web.nitech.ac.jp/

センターメンバー（2016年3月現在）

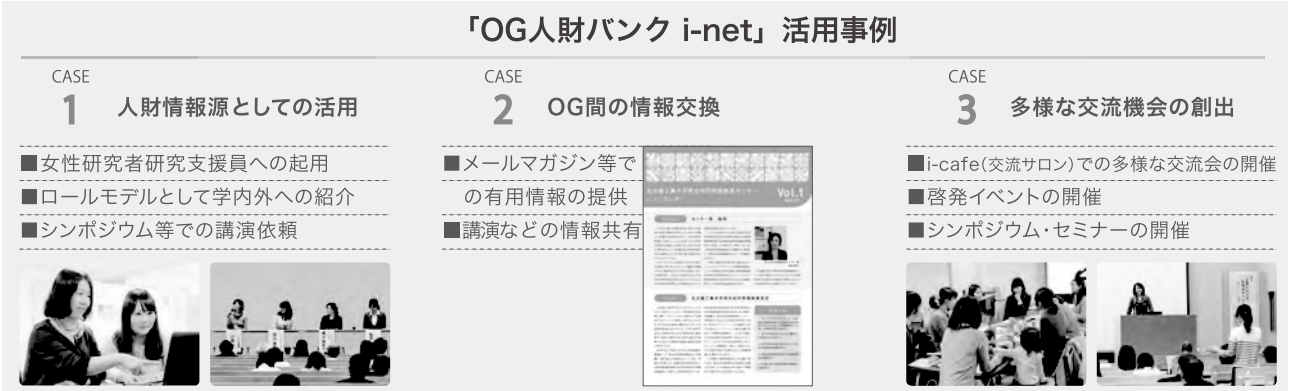
秀島 栄三 教授（都市基盤計画）
大貫 徹 教授（文化表象学）
浜田 恵美子 教授（産学官連携等）
岩田 彰 教授（情報セキュリティ等）
伊藤 孝行 教授（知能情報学）
伊藤 孝紀 准教授（環境デザイン）
上原 直人 准教授（社会教育・生涯学習）
小田 亮 准教授（認知科学・人類学）
船瀬 新王 准教授（医用生体工学等）
山本 大介 准教授（メディア情報学）
横山 淳一 准教授（社会システム工学等）
酒向 慎司 助教（知覚情報処理等）
三矢 勝司 非常勤研究員（まちづくり）
浜口 祐子 非常勤研究員（環境教育）

OG 人財バンク i-net　ご登録のお願い

男女共同参画推進センター長　藤岡伸子

男女共同参画推進センターは、平成 26 年度に「OG 人財バンク i-net」を創設いたしました。ご登録頂くと、セミナーや講演会の開催等の情報をお届けする共に、皆様の活躍の場を拡げる情報共有プラットホームとして拡充していきたいと考えております。その他に、人財情報源として、結婚や出産等の理由で、現在、第一線を退かれている OG の皆様には、本学に在籍する研究者から研究を支援する研究支援員のニーズがあった場合には、ご紹介させていただきたいと考えております。研究支援員が OG のみなさんの再チャレンジや再就職のきっかけになれば幸いです。また、第一線でご活躍の OG の皆様には、ロールモデルとして広報誌で紹介させていただく他、男女共同参画に関するシンポジウム等でご登壇をお願いしたいと考えております。

本センターのウェブサイト（http://www.nitech.ac.jp/gender/）にて、ご登録をお願いしております。本学の女性コミュニティ拡充のため、ご協力の程お願い申し上げます。



学生コーナー
（名工大新聞部提供記事）

研究室の旅
山村研究室（生命応用化学科）

記：森井伸一（都市社会工学科3年）

山村研究室は生命応用化学科で有機化学の分野を教育担当している研究室だ。研究室の雰囲気は非常にみんな仲良く、研究の時間を楽しんで充実しているという。研究が好きで熱心な学生が多い。研究実験と学生生活を楽しみながら学生は研究を過ごしている。仲の良さから山村研究室を選んだ学生もいるようだ。有機化学の中でも、「作る、反応させる」ことに主眼を置いた研究室だ。実際の実験や操作では、フラスコの中に原料と試薬を混ぜて、それが新しい物質に変わることを確認し、どんな反応が起きるか、起きた結果どんな物質ができたかを研究して、新しい作り方、きれいにする方法、その結果として新しい性質を持った新しい物質ができないかと考えて日々研究をしている。

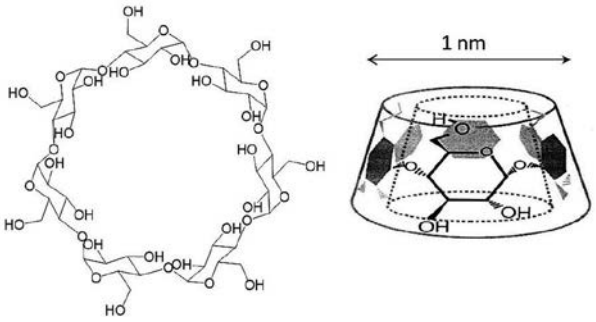
山村研究室で研究されているデキストリンは変わった形をしている。もともと微生物が持っていた分子で、輪のような形をしている。この輪には、匂いの原因分子が入り込むことが分かっており、香水や消臭剤に応用されている。例えば、デキストリンはファブリーズで使用されている。山村教授のグループは、このデキストリンをそのまま使うのもいいが、有機化学の方法を使えば他の化合物をデキストリンにくっつけることができ、もっと役に立つものになるのではないかと考えた。デキストリンにつける方法の研究をずっと山村教授たちは続けてきた。結合の方法の研究は1970年代から始まっていて、山村教授の先生の先生が始めたものだ。山村教授のグループだけでなく、世界中で同じ研究をしているグループがある。現在、つける方法、きれいにする方法、ほんとうにできているか確かめる方法が分かるようになり、大体方法論的には完成しており、何に使えるかを実践していく段階にある。山村教授は、「デキストリンは、働かせたいものを乗っける土台の分子。働く部品をデキストリンに乗せることで部品が持つ機能を発現させることができると考えています。」と述べる。アイディアとしては非常にシンプルだが、実際に取り扱うと高度の技術が必要だ。しかし、何十年も積み上げてきた技術を使えば、世界中誰もやっていないものができるという。

山村初雄教授

今、山村研究室では、デキストリンを使って、新しい抗生物質を作る研究が進められている。世界では、どんどんと開発された抗生物質が使えなくなるの期間が短くなってきている。大体使い始めたら２年で耐性菌が出てくる。次々と耐性菌が出る一方で、製薬会社の開発速度は追いついていない。こうした現状を受け、「今の抗生物質が効かない細菌に対して有効な新しい抗生物質を提供する。」ということが社会的なテーマになっている。そこで、薬剤耐性菌を殺せるような部品をデキストリンに乗せることができればそうした流れに解決の道筋を示すことができると山村教授は考えた。ペニシリンのように増殖の阻害をする抗生物質ではなくて、自然や生物の体の中にある抗生物質には直接細菌を殺せるものがある。それらの形を見てみると、ある条件、ある構造を持っていたら、その性質ができると思い、実際に作ってみたところ、効果のあるものができるようになった。医学部のある研究室との共同研究では、病院で採取された薬剤耐性菌に対して有効であることが明らかになった。現在は、部品の単純化や効率化、多くの細菌に対して有効なもの、ある細

菌に対してどのようなものが有効なのかを研究を進めている。理想は全ての細菌に対して有効な物質を作ることだと山村教授は語る。

学生へのアドバイスとして山村教授は、「一番重要なのは知的好奇心です。面白いことを見つけて自分から取り組んでいくことが大切です。しかし、与えられた環境の中でここに面白い物がないと思うのはいけません。そうではなく、その環境で面白いことをまず見つけなければなりません。そうすることによって、やる気も出るし、もっと幸せになれます。どんなところでも、その人にとって興味を持って取り組めることはどこかにあります。その場でベストを尽くすこと、そうすれば、その人に合った次がやってきます。そのためにも、今できること、楽しめること、熱心に取り組めることを一生懸命にやったほうが良いです。十代、二十代はなんでもできます。ゼロからスタートしてもおそらく数年でかなりのところまでいけます。だから、いまできることを最大限に頑張り、その上で次に行くことが大切だと思います。」と心のこもったコメントをいただいた。



シクロデキストリンの図

部活のとびら　日本拳法部

記：森井 伸一（都市社会工学科3年）

日本拳法部は今年の４月から部になる。創部したのは２年前、2014年のことだ。当時３年生だった猪飼さんを中心に作られた。猪飼さんは日本拳法を13年間道場で学んできた。他の大学の日本拳法部が活発なのをうらやましく思い、３年生の時に仲間とともに同好会を立ち上げた。

日本拳法とは警察の逮捕術の元となる武術として有名で、最近では自衛隊の訓練で徒手格闘技としても使われている。空手、柔道、少林寺拳法などを融合した格闘技だが、歴史はまだ浅い。元々関西大学から始まったものでまだ100年の歴史だという。力や体力も問われるが、身長や体重で向き不向きはほぼない。体の大きい人が勝つとは限らず、男女問わず活躍できる。最近は女子選手も増えているため、女子の活躍も大いにあるだろう。

打撃、蹴り、投げ、関節が技にある。とにかくやることがたくさんあるので、鍛錬に飽きが来ない。試合では、打撃、蹴り技、組技を用い、それぞれに特徴があるが、打撃は姿勢を崩さずに攻撃できるため、最もよく用いる。試合では、剣道のように審判が３人いて判断する。決め技の型があり、３本勝負で２本先取が基本。力いっぱい打たれても防具で守られているのでけがはしない。試合ではフィールドを目一杯使う。大人にも勝つことができ、自衛隊が大会に参加することがあるが、実際に投げ飛ばした人もいる。

日本拳法部の練習風景

新人戦で団体3位に入賞した日本拳法部のみなさん

１年生は新人戦で９校中団体３位を取った。また、60年の伝統を持つ名城大学に一回戦で勝った。現在、部員は10人。練習は月曜17時から、水曜18時から体育館の柔道場で２時間程度。型の練習や実践練習を行う。指導者もおり、週２回の練習で十分に上達するという。大学から始める人がほとんどなのでこれから武道や格闘技を始めたい人におすすめだ。社会人になっても道場などに通えば続けられる。部の今後の目標は人数をたくさん集めて、合宿を名工大単独で開くことだ。

一度見てもらえばどんな競技かよく分かるので気になる方は見学してはどうだろうか。練習日程は変更になることもあるので、見学の際は事前に連絡しておけば、無駄足になることもないだろう。

平成28年度 合格者発表

記：岡田 究大（大学院物理工学専攻応用物理学科1年）

３月７日午後３時、前期試験合格者の発表が行われた。会場は午後３時前から合格発表を待つ受験者や、部活の勧誘のために待機する人で溢れていた。午後3時になると、合格者の歓声とともに名物である合格者の胴上げが行われた。中には自ら胴上げをお願いしに行く人もいた。

本年度は、前期539名、後期368名が合格した。実質倍率は前期3.0倍（15年2.7倍、14年3.1倍）、後期4.4倍（15年3.7倍、14年3.9倍）であった。

今年度から学科改組後の年度となる。１年生は先輩方とは少々勝手が違うようだ。まず、創造工学教育課程と高度工学教育課程がある。高度工学教育課程は今までと大体同じと考えて良いだろう。一方、創造工学教育課程は一つの専門を中心として勉強することを一年後期で決定するものの、一つの分野に囚われず研究室を体験できるようプログラムを実施し、分野の枠に囚われないエンジニアを育てる教育課程だという。大学院入試なしの６年制。今までにないチャレンジといえる。高度工学教育課程（４年制）の学科は５つになる。生命･応用化学、物理工学、電気･機械工学、情報工学、社会工学だ。ただ、分野選択の時に今までの分野が残っているため学生の感覚としては分野ごとに学生が分かれているのは変わらなさそうだ。生命・応用化学が純粋な化学系や生物系の高機能性材料、物理工学が物理主体の高機能性材料を開発する学科という違いがあったり、電気と機械が一緒の学科で分野が機械工学分野と電気電子分野であったりするのが大きな違いだろうか。機械の計測系と電電の機能電子の一部は物理工学に合流するようなので、物理工学科は新しい学科と言えるようだ。

毎年恒例のアメフト部による胴上げ

合格者のお話

（社会工学科　建築デザインに合格したT・Kさん）

Q：本学科の志望理由は？

A：趣味でペーパークラフトをやっていて、モノづくりが好きです。お寺などの建築物も昔から好きなので、自分にぴったりの学科だと思いました。

Q：合格したときの気持ちは？

A：自己採点でミスが多く見つかったので、自分の番号を見つけた時はとても安心しました。去年も受験したので、リベンジが出来て良かったです。

新講堂、完成は6月末を予定

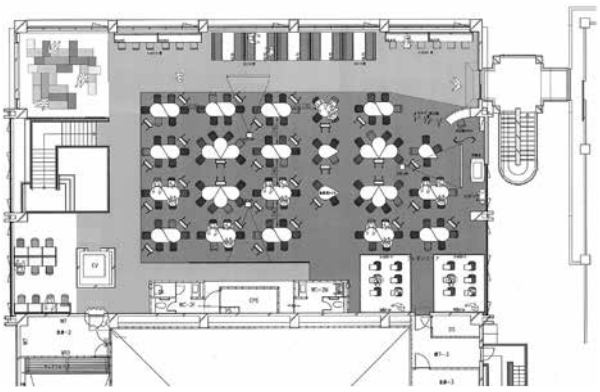
記：米谷 亮祐（都市社会工学科3年）

正門入ってすぐで現在工事中の新講堂が、６月末に内装まで完成する。

旧講堂と比べ１階のホールは、より多目的に使えるように。

完成予想図で目立つガラス張りになっている２階は、「ラーニングコモンズ」という、生徒が学習等で自由に使うことのできる場所となる。より生徒にとって親しみやすい場所となるだろう新講堂の取材を行った。

新講堂完成予想図



講堂 2Fフロアプラン

多目的ホール

新講堂１階、多目的ホールの400余りの椅子は可動式で、必要に応じて端に畳むことができる。数十人が集まる集会も、キャパシティ一杯の426人が入る講演会もできる。また、椅子をすべてどけてしまえば、広い空間を生かした研究での制作物の展示も行うことができると、文字通りの「多目的」に使うことができる。

この多目的ホールが使えるのは、７月末に外装工事が完了してからになる。

「アクティブラーニング」のできる教室

近年、アクティブラーニングという学習法が、各地域の学校で導入され始めている。

先生の話を聞くだけの座学ではない、自分たちで学問的対象に対して調べ学習を行い、ディスカッション型式で討論を行うアクティブラーニングは、より実践的な知識を習得するまたとない機会になるだろう。

ラーニングコモンズへは、講堂の入り口のほかに、図書館の２階から直通で行くことができる。新たに入場ゲートと自動貸し出し装置も２階にできるので、必要な資料をすぐ図書館で借りて簡単に持って来られる。

自習やパソコンの利用などもできるラーニングコモンズは、７月の上旬に開放される。期末テスト勉強に使ってみるのはいかがだろうか。

①アクティブラーニングエリア

122人が利用できるスペースがあり、据え付けのホワイトボード等を自由に使用できる。

座った時に隣同士の距離が近くなるよう設計されたしずく型の机は、自由に動かすことができる。

コンセントも備え付けてあり、持ち込んだパソコンや、ここで貸し出しを行っているプロジェクターなどを使用することができる。

②プレゼンエリア

普段は解放されていて、プレゼンをするときには、外との仕切りをつけることができる。図書室のセミナー室と違って、使いたいときに手続きなしで使用できる。

③ソーシャルエリア

建築・デザインの研究室が設計した、くつろげる椅子や机が設置してある。

他、見晴らしの良い窓側にカウンター席とファミレスのようなＢＯＸ席があり、各自の学習スタイルにあわせて、利用できるスペースとなっている。

新講堂　名称を公募!!

旧講堂の耐震改築として、新講堂(仮称)が、2016年6月に完成します。

そこで、この新講堂(仮称)の名称を募集します。詳細は、名古屋工業大学のHPをご覧下さい。

新聞記事コーナー

中日新聞

掲載日	刊	面	氏　名	所属学科等	記事タイトル（内容）
2016/2/16	WEBプラス		井出虹介	在学生	<ソーラーカー部体験記>（上）　名古屋工大2年・井手虹介さん　好調の波に乗り海外初参戦
2016/2/17	朝	23	名古屋工業大学	―	非正規雇用4割、改善へ協力要請　名工大に4県労働局長
2016/2/21	尾張版	20	佐野明人	機械工学科	【広告】ACSIVE試着会　2月26日・27日
2016/2/21	朝岐阜版	22	名古屋工業大学	―	ベトナム人留学生　県内の工場を見学　大共などが企画
2016/2/22	朝三河版	13	藤田智雄	在学生	力合わせゲーム挑んで　豊田で来月催し　児童、大学生の参加募集
2016/3/1	朝	34	戸苅吉孝	名誉教授	【訃報】戸苅吉孝氏死去（名古屋工業大名誉教授・制御工学）
2016/3/1	朝	10	冨田貴予美	在学生	学生の目線で「デンソー」をチェック　女性が「長く働き続ける」から、「リーダーとして活躍する」へ
2016/3/1	朝	17	田中宏樹	在学生	ソーラーカー部体験記　名古屋工大1年　田中宏樹さん
2016/3/3	朝	11	大貫　徹	社会工学科	「あ・い・ち・ふ・く・し」シンポジウム　20年度の福祉社会を見つめて～「絆」をつくるまちづくりとロボットの挑戦～
2016/3/5	朝	27	城戸　久	元学長	百名城登城、93歳・浦野さん　名古屋で写真展　「均整取れた城郭美しい」
2016/3/7	朝	20	冨田貴予美	在学生	中日新聞しごとフェア　輝く女性応援プロジェクト2017
2016/3/9	朝	29	伊藤孝紀	建築・デザイン工学科	栄から名駅へ桜並木　商店街など構想
2016/3/9	岐阜版	27	佐野明人	機械工学科	特別講演会　イビデン産業
2016/3/10	朝	25	森河由紀弘	社会工学科	三州瓦　広がる再利用　地盤改良材に、研究会報告
2016/3/12	尾張版	22	夏目欣昇	社会工学科	町家建築取り壊し体験　津島で19、20日　学生ら参加、見学も
2016/3/15	朝	9	羽田政明 濱中　泰 宮崎秀俊 岸　直希	生命・応用化学科 物理工学科 物理工学科 電気・機械工学科	永井科技財団賞決まる
2016/3/15	朝	17	石黒雄大	在学生	ソーラーカー部体験記㊦　集大成、感激のゴール
2016/3/15	WEBプラス		石黒雄大	在学生	<ソーラーカー部体験記>（下）　名古屋工大1年・石黒雄大さん
2016/3/19	朝	25	松本直司	社会工学専攻	中津川宿　歩いて再発見を　新マップ　イラストで名所案内　市と名工大院生が作成
2016/3/22	夕	8	高井一	特任教授	きくち、高井アナも登場　東海ラジオ、番組大幅に改編
2016/3/23	朝	25	鈴木悠斗	在学生	15年度市スポーツ功労者　小栗さんら3人選出
2016/3/24	朝	16	中村剛士	情報工学科	発達障害時向け「友達ロボット」開発　教育現場で利用広がる
2016/3/26	朝	24	戸苅吉孝	名誉教授	叙位叙勲
2016/3/26	朝	24	名古屋工業大学	―	名工大が2次募集　【名古屋】
2016/3/28	朝	36	名古屋工業大学	―	【広告】世界に挑むエンジニアへ。名古屋工業大学
2016/3/29	朝	19	名古屋工業大学	―	ただいま就活中　内定学生たちが「就援団」
2016/3/29	WEB		名古屋工業大学	―	ただいま就活中　内定学生たちが「就援団」
2016/3/29	可児版	22	名古屋工業大学	―	オピニオン　私はこう考える　テーマ　卒業したこと・したいこと
2016/3/29	東濃版	22	名古屋工業大学	―	オピニオン　私はこう考える　テーマ　卒業したこと・したいこと
2016/4/10	朝	21	北川啓介	建築・デザイン工学科	スポンジ製　軽い避難所　（ジュニア中日）
2016/4/13	朝	21	名古屋工業大学	―	情報ボード　アレルギー大学　会場：名古屋工業大学
2016/4/14	朝	24	桜井敦貴 松本　恵	在学生	sports愛知 弓道ナゴヤユニバーシティカップ

中部経済新聞

掲載日	刊	面	氏　名	所属学科等	記事タイトル（内容）
2016/2/23	朝	3	藤田素弘	社会工学科	「研究現場発」災害時の交通把握と対策検討　帰宅困難時の判断力培うワークショップの勧め
2016/3/15	朝	3	青木　睦	電気・機械工学科	「研究現場発」スマートハウスの設計容易に災害時の安定電力供給応用も

情報ネットワーク

平成27年度 愛媛支部総会、懇親会の報告

愛媛支部の平成27年度支部総会及び愛媛在住卒業生懇親会を、平成27年12月13日(日)、午前11時10分からホテルJALシティ松山２階の日本料亭「さわふく」に於いて開催しました。

愛媛支部は平成24年度に再スタートしてから４回目の総会となり、本部から水嶋理事長を来賓に迎え、愛媛県内から名古屋工業会の会員、非会員合わせて9名が集まりました。

今回初参加の理事長のプロフィールや今仙技術研究所と名古屋工業大学で共同開発した無動力の歩行補助具やトヨタ自動車とトヨタ車体の違いについての話で盛り上がり、その後もいくつかのグループに分かれて歓談し、楽しい時間を過ごしました。

最後は、参加者最高齢である山本様の締めの挨拶で無事終了しました。

記：浜田裕介(D⑭)

上左側より　C58馬越　F59吉良　C43千羽（支部長）
　　D⑭浜田　D⑬三木　E47加藤
下左側より　D54本宮　E39山本
　　M42水嶋（本部理事長）　C39林原
（敬称略）

平成27年度 愛媛支部 東予地区懇親会の報告

去る平成28年2月6日(土)、愛媛支部の東予地区の懇親会として新居浜市のあかがねミュージアムの見学会を行いました。自由参加の現地集合で年賀状で案内を配布しましたが、当日５名が集まりました。集合場所のCuカフェ（館内の喫茶店施設)にてしばらく歓談したのち、２種類の展覧会の見学を行いました。展覧会「新居浜市所蔵日本画を中心に」では、西条藩領地鳥瞰図屏風を見ながら自分が住んでいる地区の約300年前の姿を見て感心しました。

展覧会「第40回　東予地区高等学校　美術・工芸、書道展」では、学生とは思えない作品の質の高さに驚きました。

展覧会を一通り見学した後、記念写真を撮影して解散しました。

記：浜田裕介(D⑭)

左側より　E48長尾　C43千羽（支部長）　F41中村
　　E47加藤　D⑭浜田
（敬称略）

静岡支部テクノフォーラム開催報告

平成28年3月12日(土)に静岡県浜松市浜松駅前ビルにおいて平成27年度名古屋工業会静岡支部テクノフォーラムが開催され約40名が参加しました。今回は、山下貴司さん(Es47)、平柳通人さん(Es⑨)による講演が行われました。

山下さんからは『PET診断装置の技術と応用, 癌で死なない、呆けない社会の実現を目指して』というテーマで、近年普及が進んでいるPET装置とはどういったものか、PET装置が可能にする癌をはじめとするさまざまな病気の治療について話していただきました。現在、山下さんは浜松ホトニクス(株)の顧問であり検出器に詳しく、ノーベル物理学賞受賞の東大梶田先生のニュートリノの研究と20インチ検出器についても解説していただきました。

平柳さんからは『半導体放射線検出器』というテーマで講演していただきました。2011年3月11日の東日本大震災での福島原発事故の詳細、その後の放射線の安全確認のために検出器がどのような場面で必要となり、どのように活用されているかということをわかりやすく解説していただきました。また、国の対策や放射線技術についても報道されている内容をもとにさらに詳しい解説をしていただきました。

お二人の講演はどちらも、各メディアで報道はされているものの、その詳細については一般には理解が進んでいない内容でありました。そのため非常に興味深く自分の知識をさらに広げ、また深めることができる内容であったと思います。

講演後、会場を浜松市内の居酒屋に移して懇親会が開催されました。懇親会の参加者も多く、年齢に関係なく交流ができるいい機会であったと感じました。今回のような講演や懇親会の内容をもっとアピールすることで参加者の固定化を防ぎ新たな参加者を増やすことができるのではないかと感じました。

記：大橋裕人(E⑲)

第105回 名工大ごきそ会報告

第105回名工大ごきそ会は、平成29年3月24日(木)に、名門桑名カントリー倶楽部にて、会員２０名の参加をえて、開催致しました。しかし、天気は、快晴でもうしぶんありませんでしたが、風が強く、強風の中でのスタートとなりました。結果は、第49回に優勝された山中章右様(D35)が、グロス109、ネット83で15年ぶりに獲得されました。２位は、益々円熟されたゴルフを実行される水嶋敏夫理事長(M42)がグロス99、ネット83で獲得され、３位は、グロス99、ネット87で、いつも粘り強い安定したゴルフをされる森井敏彦様(W41)が獲得されました。競技後、懇親会に入り団欒の中、表彰式を行い、そして改めて強風下でのゴルフは、いかに難しいか実感した次第でした。又、今後の懸案事項として、現在23名の会員ですが会員増強が必要であり、早急に会員皆様方と手段を考えて増員を図って行きたいと思います。又、前回梶原様から、お話がありました親睦を目的とした名工会東京支部ゴルフ大会への参加については、今回は梶原様、森川様、篠田代表幹事様３名の方に出席していただきました。今後も参加のお誘いがあれば、積極的に声をかけて行きます。そして宴たけなわの中、次回は６月末日に、愛知カントリーで開催する事を約して、解散としました。

記：柴田　作(A42)

東京支部「第57回 東京ごきそサロン」開催のご案内

今回は平成元年卒、若手現役でご活躍中の馬場順一氏(世界の板ガラストップメーカーの一つである日本板硝子㈱勤務)に板ガラス製造技術の発展と考察についてお話しいただきます。会員各位のご参加をお待ちしています。

開催日時：平成28年6月8日(水) 18時00分～ 20時00分

開催場所：八重洲倶楽部（東京駅八重洲口地下）　電話：03-3275-0801

テ ー マ：「板ガラス製造技術の発展と考察」について

講　　師：馬場　順一（ばば　じゅんいち）氏（D①卒）
日本板硝子株式会社　AutoOE事業部門 日本営業部 主席技師
1989年名古屋工業大学応用化学科卒業、1990年日本板硝子株式会社入社、千葉工場（現千葉事業所）に配属となり、一貫して板ガラス一次製品の製造、品質保証に従事。その傍ら、板硝子協会を通じて、板ガラス一次製品のJIS規格改定、ISO規格検討などの建築用ガラスの標準化活動に参画。2015年より産業用ガラスの営業部門に配属、品質保証部門を兼務、現在に至る。

講演概要：板ガラス工業は、高度な製造技術と高額の設備投資を必要とする典型的な装置産業であり、世界的にも少数の大企業に集約されてきています。板ガラス製品は、連続製造工程（溶融→成形→徐冷）により直接生産される一次製品と、一次製品に種々の表面処理、強化、合わせ、複層化などの加工処理をした二次製品があります。今回の講演では、板ガラスの一次製品について、その製造の歴史、現代の製造プロセスなどについて、概要を紹介していただきます。

会　　費：名古屋工業会会員：１，０００円、非会員：１，５００円（全員に食事が付きます）

申 込 先：食事の準備の都合上、5月29日（日）までに下記の各科常任幹事宛、電話、FAX又はe-mailでお申し込み下さい。各科常任幹事は出席者名簿を６月１日（水）までに鈴木まで E-mail（spyn5cf9@canvas.ocn.ne.jp ）によりご連絡下さい。

C：橿尾恒次 Tel : 03-5833-7722
Fax : 03-5833-7740
e-mail: koji-kashio@tkservice.co.jp

A：石田交広 Tel : 03-3533-6081
Fax : 03-3533-9407
e-mail: t_ishida@tomoe-corporation.co.jp

M：松浦明人 Tel : 080-3560-1430
e-mail: matsuura.akito@showa-aircraft.co.jp

E：三浦太朗 Tel/Fax : 050-1580-3039
e-mail: t.miura.322@nitech.jp

D：鈴木満雄 Tel/Fax : 03-3713-8214
e-mail: spyn5cf9@canvas.ocn.ne.jp

W：印藤　嶋 Tel/Fax : 047-492-1384
e-mail: t-nikka1117@cg7.so-net.ne.jp

Y：日沖　昭 Tel/Fax : 045-911-3340
e-mail: hioki3@y6.dion.ne.jp

K：細谷佳弘 Tel/Fax : 03-5721-0367
e-mail: y-hosoya@oo.em-net.ne.jp

F：小川一郎 Tel/Fax : 049-264-0767
e-mail: i-ogawa@mtj.biglobe.ne.jp

B：佐藤　弘 Tel : 045-825-3734
e-mail: sato-sato@jcom.zaq.ne.jp

名古屋工業大学公開講座

平成28年度公開講座実施一覧

No.	名　　称		対　象　者	募集人数	実 施 日	実施時間	料金[円]
0	自動車研究の最前線と自動車産業の展望		高校生及び一般市民	100	H28.5.28, H28.6.4	H28.5.28 13:00～15:15 H28.6.4 13:00～15:20	無料
No.	担　　当	名　　称	対　象　者	募集人数	実 施 日	実施時間	料金[円]
1	情報工学科	情報通信技術政策１	一般市民	25	H28.4.7.4.14 4.21.4.28 (4日間)	16:20～17:50	無料
2	情報工学科	情報通信技術政策２	一般市民	25	H28.5.19.5.26 6.2.6.9 (4日間)	16:20～17:50	無料
3	情報工学科	情報通信技術政策３	一般市民	25	H28.6.23.6.30 7.7.7.14 (4日間)	16:20～17:50	無料
4	工学教育総合センター	さようなら、ストレス ～こころのストレスを理解して、ここち良い毎日～	一般市民	100	H28.5.31	14:00～15:30	無料
5	工学教育総合センター	「なごや（名古屋）か」ものづくり ～ムリなくムラなくつくる～	一般市民	100	H28.6.21	14:00～15:30	無料
6	生命・応用化学科, JAXA, 全国宇宙教材コンテスト実行委員会共催	子供向け実験講座	小学校 3年生～6年生	各50	H28.9及び H29.3の週末	午前または 午後の2時間	無料
7	留学生センター	世界の遊びと文化 (4)	中高校生	20	H28.7.23	13:30～16:30	無料
8	創造工学教育課程 創造工学教育推進センター	創造工学で学ぶ未来のテクノロジーのつくり方！	高校生	40	H28.7.30	13:30～16:30	無料
9	社会工学科	地盤工学からみたわかりやすい防災の話 ～甚大化する地震・液状化・豪雨・洪水～	高校生及び一般市民	100	H28.7.30	13:30～16:00	無料
10	社会工学科	制御システムセキュリティワークショップ	製造業の生産部門 並びにＩＴ部門の方	40	H28.7.30	10:30～17:50	3,660円
11	極微デバイス次世代 材料研究センター	半導体ナノテクノロジー ：日本を支える最先端技術	一般市民	20	H28.8.1	13:00～17:00	無料
12	技術部	名工大テクノチャレンジ	小学生～高校生	100	H28.8.3～8.5 (3日間)	9:00～16:30	無料
13	電気・機械工学科	体験！電気・機械工学 －基礎から学ぶ身のまわりの電気と機械の不思議－	高校生	30	H28.8.4～8.5 (2日間)	H28.8.4 13:00～17:00 H28.8.5 10:00～16:00	無料
14	情報工学科	「見る・聴く・話す」知覚メディア技術の 最先端	高校生及び一般市民	50	H28.8.5	13:00～17:00	無料
15	物理工学科	体験！物理工学の世界	高校生	30	H28.8.8	10:00～16:00	無料
16	電気・機械工学科	電気で遊ぼう！電池とモーターの楽しい工作	小学生高学年 (4～6年生),付き添いとして保護者の参加歓迎	40	H28.8.20	13:00～16:30	無料
17	大型設備基盤センター	ナノ材料の開発を支える先端計測分析技術	高校生，一般市民 及び技術者	20	H28.8.26	13:30～16:00	無料
18	生命・応用化学科	水素製造最前線 ～水素のつくり方、教えます～	高校生	40	H28.8月下旬	13:30～16:30	無料
19	情報工学科	ＩＴ技術で世界を見る！世界を変える！	高校生	50	H28.9.3	13:00～16:30	無料
20	工学教育総合センター	豊かな生活とは何だろう 快適で安全な生活を支える科学技術	高校生及び一般市民	50	H28.10.8,H28.10.15 H28.10.22(予定) (3日間)	13:00～16:00	無料
21	社会工学科	建築的胎動　名古屋工業大学建築設計講義	本学・他大学学生 及び一般市民	20	平成28年 10月上旬～12月上旬 の平日 (6日間)	13:00～14:30	3,690円
22	先進セラミックス 研究センター	表面・界面を活かした材料づくり	大学生、大学院生、 一般市民、研究者、技術者	20	H28.11.1	13:30～17:30	無料
23	工学教育総合センター	劇「これはあなたのもの」に学ぶ国際化	中学生以上	各300	H28.11.5,11.6 (5日及び6日は 同一プログラム)	13:30～15:45	無料
24	情報工学科	プログラミング体験 ～ロボットを動かすプログラムを作ろう～	高校生及び その家族等	20	H28.11.12 (予定)	13:30～16:30	無料
25	情報工学科	コンピュータサイエンス・アドベンチャー ～理論計算機科学はこんなに面白い！～	高校生及び一般市民	20	H28.11.19 (工大祭開催日)	10:30～15:30	無料

・講師、会場の都合や警報等の発令により、講座の日程等が変更になる場合がありますので、ＨＰ、ＴＥＬ等で、ご確認ください。

各講座の詳細はホームページに掲載しています。

アドレス http://www.nitech.ac.jp/course/index.html 名工大公開講座 検索

事前申込みが必要です。申込方法等は裏面をご覧ください。

問い合わせ先 名古屋工業大学学務課学部係（名古屋市昭和区御器所町）TEL (052) 735-5066

平成28年度名古屋工業大学
公開講座申込書

講座名	No.	名称		
フリガナ			性別	年齢
氏名			男・女	歳
連絡先住所	□自宅 □会社	〒　　－		
電話番号	（　　）	—		
携帯電話番号	（　　）	—		
FAX番号	（　　）	—		
Eメールアドレス	@ ※パソコンからのメールが受信できるアドレスをご記入ください。			
勤務先又は学校名				
この講座をお知りになった情報源	□名工大HP　□その他Web　□パンフレット　□チラシ □新聞　□勤務先又は学校からの紹介　□知人・家族等 □その他（　　） ・「その他Web」の場合、その名称を選択又は記入してください。 □生涯学習Webナビなごや　□あいちの学校連携ネット □その他（　　） ・「パンフレット」「チラシ」の場合、その受取場所を選択又は記入してください。 □名工大からの郵送　□生涯学習センター　□図書館　□区役所 □その他（　　）			
備考				

※講座番号 4,5,12,13及び15については、本申込書での申込ではありません。
※お申込みは各講座の受付期間内にお願いします。受付期間は、HPまたはTEL等でご確認ください。
※受付期間終了後、上記連絡先へ受講のご案内をEメールもしくはFAXにてご連絡します。
※希望テーマを選択するものについては、備考欄に希望順に番号を記載してください。
※複数の講座に申し込まれる場合は、本紙をコピーの上、講座毎にお申込みください。

申込方法

以下の⑴～⑷の方法があります。

⑴　ウェブサイトから申し込む方法
　https：//koukaikouza.ict.nitech.ac.jp/recetion/
から申し込んでください。

⑵　電子メールで申し込む方法
　次の前事項明記の上、メールの件名を「公開講座申込み」として、下記e-mailアドレスへ送付してください。
　①受講講座名
　②氏名（ふりがな）　③性別
　④年齢（学生の場合は学年も）　⑤住所　⑥電話番号
　⑦勤務先又は学校名
　⑧この講座を知った情報源
　⑨メールアドレス
　⑩案内の中で指示のあるものは、その指示に従ってください。

⑶　郵送またはFAXで申し込む方法
　公開講座申込書に必要事項を記入して、右記申込先へ送付して下さい。

⑷　窓口で直接申し込む方法
　公開講座申込書に必要事項を記入して、提出してください。

受講にあたっての留意事項

⑴　有料の講座については、講習料納入後の払い戻しはできません。
⑵　受講希望者多数の場合には、期限前でもお申込みの受付を終了させていただく場合がございます。
⑶　受付期間終了後、受講のご案内をEメールもしくはFAXにて通知します。
　※有料講座の申込みをされた方には、別途講習料の納入方法をお知らせします。
⑷　受講日には、講義開始時間までに直接会場に集合願います。
⑸　キャンセルは極力ご遠慮ください。やむをえず受講を辞退される場合には、下記問い合わせ先までご連絡願います。
⑹　自動車による名古屋工業大学構内への入構はご遠慮ください。
⑺　障害等のある受講希望者で受講上特別な措置及び配慮を必要とする方は、事前にご相談ください。

申込先・問い合わせ先

〒466－8555
名古屋市昭和区御器所町　名古屋工業大学学務課学部係
e-mail：gakumu-tan@adm.nitech.ac.jp
ＴＥＬ：（052）735－5066（ダイヤルイン）
ＦＡＸ：（052）735－5072
ＵＲＬ：http：//www.nitech.ac.jp/course/
　本パンフレットで未定となっている箇所については、HPにて随時更新いたします。

平成28年度 名古屋支部総会

平成28年度名古屋支部総会を次の通り開催致します。本年度は学科再編が行われました。再編された学科と単科会との関わりも含め、鵜飼学長にご講演をお願いしております。会員の皆様はぜひご参加下さい。

1.日　　時：平成28年 6月25日（土）14:30 ～　受付開始
2.場　　所：名古屋工業大学４号館ホール
3.日　　程：総会（15:00～16:00）
　　講演会（16:00 ～ 17:00）　鵜飼裕之 名古屋工業大学学長
　　講演題目「名古屋工業大学がめざす教育と研究」
　　名古屋ビール園浩養園（17:30～）
4.会　　費：支部総会、講演会；無料
　　懇親会；１名　2,000円（ご家族同伴の場合、人数分徴収）
5.申 込 先：下記の支部連絡先に直接ご連絡いただくか、単科会連絡幹事等へ。
　　締切は６月４日（土）

支部連絡先：栗田 典明（名古屋工業大学物理工学科内　名古屋工業会名古屋支部庶務）
　　Email：kurita@imono.mse.nitech.ac.jp　　TEL：052-735-5297

ＣＥ会　小井手秀人（Ｃ63）TEL052-954-6516
光鯱会　宇佐美智伯（Ａ⑥）TEL052-704-6137
巴　会　杉山　耕一（Ｍ⑥）TEL052-872-9251
電影会　三宅　正人（Ｅ60）TEL090-3581-4472
双友会　泉地　正章（Ｗ44）TEL052-837-7271
緑　会　大橋　聖一（Ｄ45）TEL0533-87-3741
名窯会　多賀　　茂（Ｙ62）TEL090-6801-3353
名晶会　栗田　典明（Ｋ60）TEL052-735-5297
計測会　米谷　昭彦（Ｆ60）TEL052-735-5380
経友会　仁科　　健（Ｂ50）TEL052-735-5396
情友会　松尾　啓志（Ｊ58）TEL052-735-5446

各単科会幹事様はメールにて参加者情報をご連絡いただけますと幸いです。

平成28年度 緑会総会のご案内

緑会総会・講演会を下記の様に開催いたします。同窓生をお誘い合わせの上、ご参加ください。総会・講演会後の懇親会会費は無料といたします。

準備の都合上、ご出席のご連絡は、6月3日（金）までにお願い致します。

日　時：平成28年6月18日（土）13時より
　　（例年より1時間早い開始時間となっております。ご注意下さい）
場　所：名古屋工業大学２号館１階0211（旧Ｆ1）教室
　　○総　　会
　　○大学近況報告
　　○学術講演会　14：00～15：00
演　目：「大学教育でめざすもの」
　　講師　田野瀬良太郎　氏（工業化学科昭和45年卒）
　　1970年3月名古屋工業大学卒、1973年市議会議員初当選。その後、県会議員、衆議院議員に当選し、自治政務次官、財務副大臣、自民党文部科学部会長、自民党三役・総務会長等を務める。教育行政に精通され、1981年なかよし保育園を開園。さらに西大和学園高等学校、西大和学園中学校、西大和学園カリフォルニア校、白鳳女子短期大学（現 白鳳短期大学）を設立され、2014年4月、西大和学園の集大成として大和大学を開学し、学長に就任。
　　○懇親会　生協１F大食堂 15：30 ～ 17：00
連絡先：学内幹事 midori@ach.nitech.ac.jp

平成28年5月1日発行（隔月1日発行）

企画から製本まで承ります。

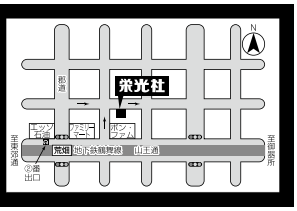
企画・デザインから製本まで
トータルサポートでお値打ち!!

デザイン
名刺・ハガキ・封筒・チラシ・カタログ・パンフレット・ポスター・定期刊行物etc.
タイプ・電子組版時代から築き上げられたノウハウはDTPにおいて、特に不得意とされる縦組みの書籍・表組みの頁物も得意分野です。

印　刷
カラー印刷・２色刷り・１色刷り・特色刷り、品質・部数・ご予算に応じて提供いたします。
Macintoshのみならず、ワード・一太郎等の通常オフセット印刷に適さないWindowsデータの出力ノウハウもありますのでご相談ください。

製　本
自分史・体験記・詩歌・俳句・小説・エッセイ・童話・絵本等、自分の本を作りたいとお考えの方。
各種マニュアル・広報・配布文書・名簿・クラブ・サークル誌・宣伝物等、製本でお困りの学生・法人の方、少ロットよりお手伝いします。

総合印刷の
有限会社 栄光社
〒466-0014 名古屋市昭和区東畑町一丁目42番地
TEL.(052)741-7701
FAX.(052)741-7703
URL http://www2.ocn.ne.jp/~eik/
E-mail eikou@theia.ocn.ne.jp



（株）ブライダルは
名古屋工業大学会員の皆様の
「結婚」を応援します。

38年の実績
（一橋大コースetc）

左のQRコードにて携帯サイトに簡単にアクセスできます。
（一部対応しない機種がございます。）

名古屋工業大コース
これをご覧になったとおっしゃってくだされば
登録料 50 % OFF
ブライダルコース ￥226,800▶￥210,600 etc.
エクセレントコース ￥388,800▶￥372,600 etc.
価格は登録料・会員サポート費・月会費（12回分）の税込総額です。

●成婚率は業界トップクラス。
●入会審査有り。
●都庁・官公庁・有名大学などでメディア展開。
●お客様満足度NO.1のお世話を目指し少子化問題にも貢献。

株式会社 ブライダル（お問い合わせ（月曜定休））0120-415-412
http://www.bridal-vip.co.jp
名古屋本社 〒460-0008 名古屋市中区栄3-7-13 コスモ栄ビル9F
Network　東京・横浜・湘南・浜松・豊橋・名古屋・岐阜・大阪

60名のデンソー等企業出身者が御社の課題を解決します！

技術支援　メカから電気・電子、半導体まで
開発設計、品質、生産技術、生産まで

研修・講演
技術系全25講座ー材料、加工、設計、電気・電子、組込ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ、各種要素技術…
品質系全30講座ーDRBFM、なぜなぜ分析など各種未然防止手法
ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ系全10講座ー経営品質、もしﾄﾞﾗﾘｰﾀﾞｼｯﾌﾟ、ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ管理…

WORLDTECH
株式会社ワールドテック
代表取締役　寺倉修（F50）
〒458-0901　名古屋市中区錦2-15-22りそな名古屋ビル7F
TEL：052-219-6025　FAX：052-219-6026
E-mail：solution@worldtech.co.jp

特許業務法人
英知国際特許事務所
EICHI Patent & Trademark Corp.
所長 弁理士　岩 﨑 孝 治
── 知財の総合コンサルタント ──

【東京本部】〒112-0011 東京都文京区千石4-45-13
TEL：03-3946-0531（代）
【虎ノ門サテライト】TEL：03-6206-6479
【帯広支部】TEL：080-6516-4160
【仙台支部】TEL：022-266-5580
【山形支部】TEL：023-651-6102
【神奈川支部】TEL：045-532-3827
【浜松支部】TEL：080-2077-6544
【名古屋支部】TEL：090-4227-5957
【大阪支部】TEL：072-201-1593
URL：http://www.eichi-patent.jp

広報委員会

委　員　長　　森川　民雄（W45）

学　内

上原　　匠（C60）
北川　啓介（SA⑧）
藤井　郁也（Mb③）
岸　　直希（EM⑫）
杉本　英樹（ZW⑥）
岩田　修一（D①）
本多　沢雄（ZY⑥）
米谷　昭彦（F60）
横山　淳一（FB⑥）

学　外

山盛　　康（SC③）
浅野　　健（SU⑥）
安楽　崇宏（M⑧）
廣瀬　光利（E50）
吉木　　満（W56）
髙取　　奨（D⑥）
道家　清正（Y30）
大矢　泰正（K52）
守田　賢一（F47）

渡　　尊司（名古屋工業大学 広報室長）

ブラザーロジテック
ブラザーロジテック株式会社は
ブラザー工業株式会社の子会社です。

安心・親切・丁寧に対応いたします。

引っ越し
安心・安全・確実に責任を持って
お手伝いさせて頂きます。

事務所移転
1.経験豊富なスタッフ多数
2.ブラザーグループ内での事務所移転は全て行っています。

安心してお任せください。
まずはご連絡ください。
TEL 052-824-2310（引越担当）

車検・点検・整備　法定点検・車両故障もお任せください。
車検　オイル交換　車両販売
マイカー・社用車・トラック・フォークリフト各種取り扱い
（中部運輸局指定整備工場名指　第2490号）
まずは、お電話でご予約ください。 0120-06-2377

ブラザーロジテック株式会社　取締役　総務部長　吉田 信人（M57）
〒457-0842 愛知県名古屋市南区戸部下1丁目4-20　http://www.brother-logitec.co.jp/

※広告を募集中です。お問い合わせは名古屋工業会のメールアドレスまでお願いします。

発行人／一般社団法人名古屋工業会　理事長　水嶋敏夫
電話（直通）〇五二―七三二―〇七八〇　ファックス〇五二―七三二―五二九八　振替口座番号　〇〇八三〇―八―五八六四